

中国・貴州省の少数民族村の観光開発と保全

北京事務所

ご存知のとおり、中国は漢族と 55 の少数民族が居住する多民族国家です。少数民族の多くは内陸部に居住しており、生活環境も沿岸部に比べて厳しいところが多くなっています。そのひとつ、貴州省の少数民族村を訪ねてきました。

中国内陸部の中でも、というよりも中国国内全体で見ても貴州省は 1 人あたり GDP が全国最低の 19,574 元（2012 年、現在のレートで約 34 万円）となっています。カルスト地形で有名な貴州省は平地が少なく、大規模製造業の立地は省都・貴陽市など都心部に限られます。一方で、山間地では昔ながらの生活を送っている集落もあれば、観光開発に力を注いでいる集落もあります。

貴州省の特徴は、省内人口における少数民族の割合がもっとも高い省であることです。少数民族の村落が数多く存在しており、一部の村では民族観光村として国内外の観光客を集めているところもあります。こうした集落は都市から隔たった立地であることが多いのですが、近年では道路整備が進み、たとえばこれからご紹介する 2 つの集落は貴陽市から車で 3 時間ほどで行くことができます。

ミャオ族は中国の少数民族の中では 4 番目に人口が多い民族で、貴州省を中心に全国で 940 万人以上います。西江千戸苗寨は先述のミャオ族が集住する集落で、山間をしばらく走ると約 6,000 人が集住する集落の入口が突如として現れます。この集落は国家旅遊局による全国 A 級旅遊景区（後述）に指定されており、集落に入るには入場料 100 元／人（約 1,700 円）が必要です。住民による入口での歓迎セレブション、そして専用の舞台での民族舞踊ショーが 1 日 2 回ずつ行われるほか、道沿いには土産物店と宿泊施設がずらりと並びます。



整備された西江千戸苗寨の街並み



ミャオ族の舞踊ショー

少数民族が生活している集落とは言え、西江千戸苗寨はまさに観光地（テーマパーク）化された集落との印象を受けます。観光地化が過度に進んでいるという側面は否定できませんが、一方で、集落全体の管理が行き届いていますし、また、大型バスによる団体客、時間の限られた旅行客に最適な場所と評価することもできるでしょう。

一方、西江千戸苗寨の付近にあり、同じくミャオ族が居住する郎徳上寨についてもご紹介しておきます。こちらは国の全国重点文物保护单位に指定されているものの、全国A級旅遊景区には指定されていません。無料で集落内に入ることができ、いわば村まるごとミュージアムといった感じです。以前から観光客に開放されてきた村落で、売り子さんが刺繍などの特産品販売を行ってはいるものの、集落全体に生活感が満ちていることは先の村落との相違点であると言えるでしょう。



肥やしを運ぶ郎徳上寨の住民



ミャオ族刺繍とその作り手

ところで、西江千戸苗寨のような全国A級旅遊景区での入場料が高すぎるのではないかと、といった指摘が中国国内でよくなされています。全国A級旅遊景区は2003年に国家旅遊局が定めた観光地規定で、観光資源や交通、施設の管理状況等により、最上級の5Aから1Aまでの5段階に分類されています。2012年現在、全国に2万近くあると言われる観光地のうち、約6,000もの施設が全国A級旅遊景区に指定されており、うち5A級旅遊景区は故宮や万里の長城をはじめ147か所あります。中国社会科学院による調査によると、5A級旅遊景区の平均入場料は109元（約1,800円）、4A級は56元（約950円）となっており、海外の観光地の入場料や中国国内の物価を勘案すると高額だとの指摘があります。

高額な入場料の背景には、収入の多くを入場料に依存している観光施設が多いことが指摘されていますが、一方で地方政府が補助金等の負担割合を高めた方が観光地の長期的な発展に良いのかどうか、一概には言えない部分もあります。先の西江千戸苗寨は4A級旅遊景区に指定されており、一人あたり100元の入場料は4A級としては高額であるものの、自然景観とは異なり、大勢の住民が演出する、1日2回の歓迎レセプション・民族ショーにかかる人件費を考慮すれば納得のいく金額だ、と考えることもできるかもしれませ

ん。入場料収入により、地元住民は出稼ぎの必要がなくなり（西江千戸苗寨など大規模観光地は周辺からの出稼ぎがあります）、貧困から抜け出すことができる、あるいは遅れていると思われがちな少数民族の文化に自信を持つといったメリットも享受できるでしょう。

いずれにせよ、西江千戸苗寨はじめ中国各地の少数民族村においては、伝統文化・景観の保全に注意を払いつつも、地方政府・集落の指導者による絶妙な舵取りが今後も求められる、ということだけは間違いなさそうです。

(西平所長補佐 山梨県派遣)

